

12月14日(金)実施

## 公開研修会(名古屋教授)



作業学習のあり方について説明する名古屋教授＝松崎高

# 「地域とつながる授業」

東部特支  
松崎分校

## 公開研修会に50人

松崎町の県立東部特別支援学校伊豆松崎分校は14日、県立松崎高で教員の授業力向上を目的とした公開研修会を開いた。植草学園大発達教育学部発達支援教育学科の名古屋恒彦教授が講師を務め、「地域とつながる作業学習の授業作り」をテーマに講演した。県内の特別支援学校、賀茂地域の小中学校などから教員ら約50人が参加した。名古屋教授は作業学習とは実社会での「働く生活」を想定するもので、高い労働性と継続性が重要であると説明。教職員や保護者を相手にした作業学習では規模の縮小や甘え、不自然な厳しさが生じてしまうことから、どのような作業種であっても、実社会での活動を基本とすべきと説明。「(実社会では)

きれいな言葉ではなく、厳しい言葉をいただくこともある。本物の地域とのつながりがそこには確かにある」と話した。講演に先立ち、授業公開も行い、名古屋教授と参加者が分校生徒たちの授業風景を見学した。